

「当院におけるACS患者に対するDoor to Balloon time短縮への取り組み」に関する情報公開

1. 研究の対象

平成 26 年 3 月 1 日～平成 31 年 4 月 30 日までに、当院の救急外来を受診し、緊急で心臓カテーテル治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

<研究の目的・意義>

当院救急外来受け入れの緊急の経皮的冠動脈形成術(何らかの影響で閉塞・狭窄してしまった冠動脈を拡張させて冠動脈の血流を戻すカテーテル治療:以後 PCI)は、平成 27 年 7 月から平成 28 年 9 月までの 1 年間で 50 件でした。この 1 年間の緊急 PCI で患者さんが当院救急外来到着から治療をして冠動脈の血流が戻るまでの時間(以下 Door to Balloon time)は平均 130 分程を要していました。このうち、救急外来の滞在時間が、時間外では 108 分、平日日勤では 54 分と、2 倍の差がありました。時間外は救急外来専従看護師ではなく、他部署の看護師が月 2 回程度の勤務であり、胸痛患者の受け入れについて訓練されていないのが現状であると考えられます。平成 28 年 10 月 1 日より、既存の胸痛患者フローチャートを廃止し、ガイドラインに沿ったチェックリストとテンプレートを導入し看護業務の改善を図りました。チェックリスト・テンプレート導入後の緊急 PCI で Door to Balloon time 等に変化があったかどうか、時間の比較を探索的に行なうのが目的です。

<研究方法>

- 1) 平成 26 年 3 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日までに、当院救急外来に搬送または受診された緊急 PCI の患者さん(pre 群 100 件)と、平成 28 年 10 月 1 日のチェックリスト・テンプレート導入～平成 31 年 4 月 30 日までに、当院救急外来に搬送または受診された緊急 PCI の患者さん(post 群目標 100 例)で分けます。
- 2) 心臓カテーテル検査台帳から対象患者さんの抽出を行い、カルテ記載内容(主に看護経時記録)を調査し、チェックリスト・テンプレートの導入前後で Door to Balloon time 等に変化があったかどうか、時間の比較を探索的に行ないます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：属性（性別、年齢）、現病歴、既往歴、PCI の治療経過、家族付き添いの有無、チェックリスト・テンプレートの記載率 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内

で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先（研究責任者）：

名古屋大学医学部附属病院 中央放射線部 看護師長 大宮孝子

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

電話番号052-741-2111